

平成27年度 中洲小学校 教育研究計画

1 研究主題

研究主題：自覚的なことばの学び手を育てる国語科授業の創造

～自分の思いや考えをもち、伝え合う力を育てる授業づくりを通して～

2 研究主題設定の背景

本校では、平成24年度から、伝え合う力を伸ばすために国語科「読むこと（文学的文章）」を中心に研究を進めてきた。

昨年度は、岡山県国語教育研究発表大会校となった。自覚的な学び手を育てることを目指し、自分の思いや考えを再構築する場である授業のまとめを充実させるために、「どのような学びを活用したのか」「新たな学びは獲得できたか」という視点を明らかにし、日々の授業に取り組んできた。単元を貫く言語活動を位置付け、めあてや発問、伝え合う場を充実させた授業を展開し、獲得した学びを全体で共有する経験を重ねることで、自ら学び、自分の思いや考えをもち、伝え合う力を育てることができると考えてきた。

3年間の取組を通して、文章を読み、自分の思いや考えを書く楽しさ、自分の考えを伝える喜び、他の意見を知るおもしろさを味わい、国語に対する興味や意欲が高まっている児童は多い。また、自覚した学びを、次の時間の自分の思いや考えをもつことに生かそうとする児童も増えた。さらに、全国学力・学習状況調査において、岡山県、全国平均を共に上回り、学力が付いたという成果をあげることができた。

しかし、伝え合う力を育てるための取組としてのペアやグループでの話し合いでは、児童は、友達の発言につなげて話すことができるようになってきているものの、友達の考えと異なる場合に疑問や反対意見などを発言することは、十分できているとは言えない。教師は、目的を明確にして、「何を話し合わせるのか」「何のために話し合わせるのか」など、話し合いの目的を明確にもっておく必要がある。「児童にどんな力を付けたいのか。そのために、この教材で何を教えるのか」について、教師が単元の見通しをもっておくことが大切であると考えている。

また、これまでの取組で児童に培われた力の維持、さらなる向上を目指して、めあてからまとめまでが収まる時間配分、分かりやすい指示、児童の思考にそった板書などの授業改善の取組をもう一度共通理解する必要がある。さらに、国語科だけにとどまらず、他教科においても授業の振り返りをきちんと行い、児童の自覚的な学びを育てていくことが大切であると考えている。

本年度は、昨年度までの研究主題、副主題を引き継ぎ、「読むこと」を中心に研究を進めていく中で、さらに説明的文章でも同じように単元を貫く言語活動に取り組んでいく。説明的文章の言葉から想像を広げ、言葉にかかわって学習を進め、自分の思いや考えをもち、伝え合う力を育てていきたい。

3 めざす児童の姿

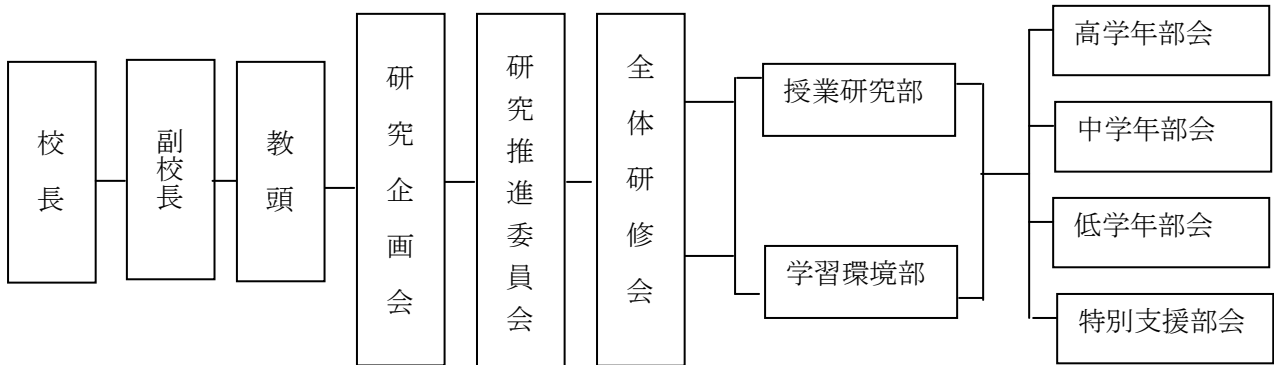
「自分の思いや考えをもち、伝え合うことができる児童」

低学年…想像を広げながら読み、自分の考えを発表し合う子

中学年…叙述を基に想像しながら読み、互いの感じ方や考え方の違いに気付く子

高学年…優れた叙述について自分の考えをまとめ、考えを広げたり深めたりする子

4 研究組織



5 実施計画

月・日	教科・領域等	研究内容
4月	国語科	研究主題・研究組織・研究内容・研究計画について 本年度の研究についての共通理解
6月12日	国語科	計画訪問
6月26日	国語科	第1回 校内授業研究会（第2・6学年）
10月2日	国語科	第2回 校内授業研究会（第3・5学年）
1月28日	国語科	第3回 校内授業研究会（第1・4学年）
2月	国語科	研究の取組についてのまとめと反省
3月	国語科	次年度に向けての方向付け